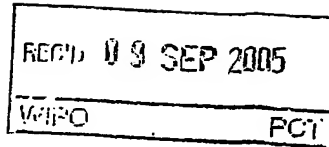


# 特許協力条約

PCT



特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)  
[PCT 36 条及び PCT 規則 70]

出願人又は代理人 の書類記号 150563-227	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/016596	国際出願日 (日.月.年) 09.11.2004	優先日 (日.月.年) 11.11.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. <sup>7</sup> G05B19/418		
出願人 (氏名又は名称) 豊和工業株式会社		

- この報告書は、PCT 35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。  
法施行規則第 57 条 (PCT 36 条) の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
  - ☒ 附属書類は全部で 1 ページである。
    - ☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)
    - ☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
  - ☐ 電子媒体は全部で \_\_\_\_\_ (電子媒体の種類、数を示す)。  
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するデータを含む。 (実施細則第 802 号参照)
- この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
  - ☒ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
  - ☐ 第 II 欄 優先権
  - ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
  - ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
  - ☒ 第 V 欄 PCT 35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
  - ☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献
  - ☐ 第 VII 欄 国際出願の不備
  - ☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 12.05.2005	国際予備審査報告を作成した日 25.08.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 齋藤 健児	3C 3020
	電話番号 03-3581-1101 内線 3324	

様式 PCT/IPEA/409 (表紙) (2004 年 1 月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎とした。  
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)という国際調査
- ☐ PCT規則12.4という国際公開
- ☐ PCT規則55.2又は55.3という国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に回答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 1-22 ページ、出願時に提出されたもの  
第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの  
第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 2-7 項、出願時に提出されたもの  
第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
第 1 項\*、12.05.2005 付で国際予備審査機関が受理したもの  
第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 1-17 ページ/図、出願時に提出されたもの  
第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの  
第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

## 第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	1-7	有
	請求の範囲		無
進歩性(IS)	請求の範囲	1-7	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-7	有
	請求の範囲		無

## 2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: JP 10-55393 A (株式会社神戸製鋼所)  
1998.02.24, 図3

## 請求の範囲1-7

国際調査報告で引用された文献1には、列方向にワークの流れ方向が設定され、行方向に工程識別名称と構成要素名称とが記述された要素配置データを有する工程シミュレーションシステムが記載されている。

しかしながら、要素配置データから、構成要素名称を読み込み、要素定義ファイルから、上記構成要素名称に対応する要素定義ファイルを読み込み、上記要素定義ファイルに記述されたシミュレーションプログラムを順に配列し、シミュレーションプログラム配列を作成し、それを実行して、生産システムを構成する各種構成要素の動作をシミュレートすることは、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

### 請求の範囲

- [1] (補正後) 生産システムの工程編成を決定するよう当該生産システムを構成する各種の構成要素の動作をシミュレートして工程シミュレーションを行なう工程シミュレーションシステムにおいて、

生産システムを構成する各種の構成要素の配置を工程識別名称と構成要素名称との組み合わせによりワークの流れに沿って記述してなる要素配置データから、構成要素名称を工程識別名称と組み合わせた状態で順次読み込む要素配置データ読込手段と、

前記各種の構成要素の動作シミュレーションを行なうためのシミュレーションプログラムを前記各種の構成要素ごとに記述してなる複数の要素定義ファイルの中から、前記要素配置データ読込手段により読み込まれた構成要素名称に対応する要素定義ファイルを順次読み込む要素定義ファイル読込手段と、

前記要素定義ファイル読込手段により読み込まれた前記各要素定義ファイルに記述されているシミュレーションプログラムを順に配列してシミュレーションプログラム配列を作成するプログラム配列作成手段と、

前記プログラム配列作成手段により作成された前記シミュレーションプログラム配列に含まれる一連のシミュレーションプログラムを実行して、前記生産システムを構成する前記各種の構成要素の動作をシミュレートするプログラム実行手段とを備えたことを特徴とする工程シミュレーションシステム。

- [2] 前記要素配置データは、文字情報の追加や削除等の編集が可能なソフトウェアを用いて作成される表形式のデータからなり、列方向にワークの流れ方向が設定され、行方向に工程識別名称と構成要素名称とが記述されていることを特徴とする、請求項1に記載の工程シミュレーションシステム。

- [3] 前記各要素定義ファイルは、自己のシミュレーションプログラムを記述したプログラム記述部と、自己のシミュレーションプログラムで使用される変数を記述した変数記述部とを含み、前記変数記述部には、他の要素定義ファイルの変数を参照する要素定義ファイルであれば、参照先変数を指定する外部参照変数が定義され、他の要素定義ファイルに変数を参照させる要素定義ファイルであれば、外部参照変数により参照される取出変数が定義されており、